

柔道の「背負い投げ」学習と「思考力」の評価に関する実践的研究

山浅 美里（上越教育大学大学院）

I はじめに

本研究では、対人的種目である柔道の学習を取り上げ、柔道の授業と「思考力」の評価に関する検討を行うこととした。そのため、柔道の「背負い投げ」学習を実施した際の学習カードに記述された内容について、上越教育大学による『『体育』における『21世紀を生き抜くための能力』の『思考力』の捉え方』（以下、「思考力の捉え方」）に示された評価手順及び「柔道『背負い投げ』の学習を例として」に示された評価規準に従って評価を行い、学習者に表れる「思考力」の内容を検討した。

II 研究方法

1. 授業内容：J大学の学生18名（男子15名、女子3名）を対象に、45分×8回の柔道の「背負い投げ」学習の授業を実施した。単元を通し、柔道の「柔よく剛を制す」の理合の理解を促す授業を実施した。授業の学習内容と具体的な活動内容は、第1時間目及び第2時間目では受け身の習得に努めた。第3時間目及び第4時間目では、「一本背負い」の体さばきの習得に努めた。第5時間目及び第6時間目では、打ち込み練習や互いにマットの上で投げ合う練習により「一本背負い」動作の習熟に努めた。第7時間目及び第8時間目では、「相手の力をうまく利用して投げるには？」という課題を提示し、グループでの言語活動を重視した活動を行った。また、この第7時間目及び第8時間目では、グループ活動時に iPad を配布し、「一本背負い」の示範動画と撮影した自分たちの「一本背負い」の動作を比較しながら活動を実施した。各授業終了後、「できたこと（分かったこと）」、「できなかったこと（分らなかったこと）」を学習カードに記入するように依頼した。

2. 分析方法：学習カードに示されたそれぞれの記述内容は「思考力」の評価における下位項目である「問題解決・発見：『特徴を見取り問を立てる』、『原因・理由を思考し説明』、『反省的に思考し解決策の説明』、『要件の説明』、『論理的・批判的・創造的思考：『関連を把握し説明』、『適切な練習方法の提案・保証』、『実践を評価し課題を挙げる』及び「メタ認知・学び方の学び：『柔よく剛を制すの理合の説明』、『日常での態度として実践する』」について評価を行なった。記述内容はそれぞれの評価規準に対して「A：評価規準を充足している」、「B：評価規準をおおむね充足している」、「C：評価規準を充足していない」とし、評価規準の全10項目に対して3段階評価を行った。

III 結果の概要とまとめ

「思考力」の中の下位項目で「A」評価であった項目は、「反省的に思考し解決策を説明」、「要件の説明」、「関連を把握し説明」、「実践を評価し課題を挙げる」という「問題解決・発見」、「論理的・批判的・創造的思考」における4項目であった。一方、「原因・理由を思考し説明」といった「問題解決・発見」に関する項目、「適切な練習方法を提案・保証」といった「論理的・批判的・創造的思考」に関する項目、「メタ認知・学び方の学び」に関する項目において学習者の多数が「C」評価だったため、「思考力」を十分に発揮するまでに至らないという結果であった。今後は、体育授業における十分な「思考力」の涵養のためには、内在的フィードバックである視覚的、筋感覚的なものの評価を学習者が分かりやすく表示することや、外発的フィードバックである視覚的、言語的要素が入った学習カードの工夫や表現活動の場を設定することが体育実技指導に求められると考える。